

こやま さくのすけ
 ♪ 小山 作之助 (1863-1927)

滝廉太郎の才能を認め、指導に力を注いだ。また、大衆に愛される「ヨナ抜き音階」を普及させた。

■代表曲

「夏は来ぬ」「川中島」「敵は幾万」

■こんな人物

明治 16 年(1883) 2 月に東京音楽学校の前身、文部省音楽取調掛に入学し、明治 20 年(1887) 2 月に全科卒業。卒業と同時に文部省音楽取調掛教授補助を勤めるかたわら、東京府師範学校付属の唱歌伝習所、東京盲啞学校の音楽教師も兼務した。明治 24 年、「国民唱歌集」(全 20 曲)を発表。また、音楽学校入学志望者のために、芝区愛宕町に「芝唱歌会」を開塾。後に「荒城の月」の作曲者として有名な滝廉太郎も、この塾で小山の指導を受けた。また、「日本教育音楽協会」の設立に奔走し、大正 11 年、同協会の初代会長を務めた。

小山の作風で注目されるのは、いわゆる「ヨナ抜き音階」を日本の俗謡音階といわれるまでに普及させたことが挙げられる。

■生没年

文久 3 年(1863) 12 月、新潟県中頸城郡潟町村に生まれる。父は高田町(現・上越市)在の鴨島で石油事業を経営していた。没年は昭和 2 年(1927) 6 月 27 日。享年 64 歳。

♪ 参考文献

・『越佐が生んだ日本的人物 続』新潟日報社 1965

※当館未所蔵 国立国会図書館デジタルコレクション(図書館送信)で閲覧

・『本邦音楽教育史』日本教育音楽協会編 第一書房 1982 [760.7/15]